



いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会

翔べ 羽ばたけ そして未来へ



Team Wakayama News 【第47号①:令和元年10月9日発行】



いきいき茨城ゆめ国体 開幕！！



和歌山県選手団 997点獲得 第22位

入賞おめでとうございます！！

● アーチェリー競技

成年男子

倉矢知明(株式会社インダ)	6位	9点
増田和輝(長崎国際大学4年)		
平松勇人(長崎国際大学4年)		

● カヌー競技

成年男子

カヌースプリントカヤックシングル200m	1位	8点
カヌースプリントカヤックシングル500m	5位	4点
宮田悠佑選手(和歌山県教育センター学びの丘)		
カヌースプリントカナディアンシングル200m	3位	6点
カヌースプリントカナディアンシングル500m	8位	1点
阪本直也選手(神島高等学校(教))		
カヌーワイルドウォーターカヤックシングルスプリント	6位	3点
大戸文吾選手(和歌山県教育センター学びの丘)		

少年男子

カヌースプリントカヤックシングル200m	1位	8点
カヌースプリントカヤックシングル500m	1位	8点
冨塚晴之選手(田辺工業高等学校3年)		
カヌースプリントカナディアンペア200m	8位	1点
カヌースプリントカナディアンペア500m	6位	3点
船本佑哉選手(神島高等学校3年)		
野久保翔万選手(神島高等学校3年)		

少年女子

カヌースプリントカヤックシングル200m	4位	5点
尾崎由依選手(田辺高等学校2年)		

● ライフル射撃競技

成年男子

50mライフル男子伏射60発	6位	3点
50mライフル男子膝射20発	4位	5点
町田健太郎選手(株式会社鴻池組)		
10mエア・ピストル男子60発	5位	4点
宮脇正人選手(大阪歯科大学2年)		
センター・ファイア・ピストル男子30発	5位	4点
清水晃久選手(和歌山県警察)		



● ウエイトリフティング競技

少年男子	81kg級スナッチ	2位	7点
	81kg級クリーン&ジャーク	1位	8点
	駒阪勇氣選手(紀北工業高等学校3年)		
	96kg級スナッチ	3位	6点
	96kg級クリーン&ジャーク	6位	3点
	立花昂暉選手(紀北工業高等学校3年)		

● バスケットボール競技

成年女子	川端美貴子選手、二上万由選手、米田真依選手 川口絢選手、筒井悠月選手、奥田綾乃選手 木工理恵選手、上田千晶選手、灘本夏綺選手 丸山陽絵選手、西田花奈選手(株式会社紀陽銀行)	3位	27.5点
------	---	----	-------

● ボウリング競技

成年男子	個人戦	和田翔吾選手(和歌山県庁)	6位	3点
	団体戦(2人チーム)	和田翔吾選手(和歌山県庁) 安里秀策選手(株式会社イーストレジャー)	1位	24点
	団体戦(2人チーム)	渡邊玲史選手(日吉染業株式会社) 川崎未来選手(岡山商科大学2年)	6位	9点
	団体戦(4人チーム)	和田翔吾選手(和歌山県庁) 安里秀策選手(株式会社イーストレジャー) 渡邊玲史選手(日吉染業株式会社) 川崎未来選手(岡山商科大学2年)	3位	18点
成年女子	団体戦(2人チーム)	安里紗希選手(レンタルハウス株式会社) 伊勢川華愛選手(和歌山大学1年)	5位	12点
	団体戦(4人チーム)	伊勢川華愛選手(和歌山大学1年) 山本菜由選手(和歌山県庁) 安里紗希選手(レンタルハウス株式会社) 川口茉紀選手(川口ビル)	2位	21点

● ボクシング競技

成年男子	フライ級	林田翔太選手(和歌山県教育庁)	5位	2.5点
	ライトウェルター級	星大二郎選手(和歌山県教育庁)	3位	5.5点

● 陸上競技

成年女子	円盤投	酒井梨々華選手(東京女子体育大学4年)	7位	2点
	走高跳	松本万鈴選手(和歌山北高等学校3年)	5位	4点
	やり投	助永仁美選手(株式会社オークワ)	3位	6点
少年男子共通	5000m競歩	岩井和也選手(和歌山北高等学校3年)	4位	5点
少年男子B	砲丸投	小林聖選手(紀央館高等学校1年)	3位	6点



● フェンシング競技

成年男子	フルーレ	東哲平選手兼監督(和歌山県庁) 井川晃暉選手(日本大学2年) 松村侑馬選手(中央大学3年)	3位	18点
成年女子	フルーレ	九野桃佳選手兼監督(和歌山県教育庁) 東莉央選手(日本体育大学3年) 東晟良選手(日本体育大学2年)	1位	24点
少年男子	フルーレ	太田航輔選手(和歌山東高等学校3年) 森大翔選手(向陽高等学校2年) 山口改選手(星槎国際高等学校2年)	4位	15点
少年女子	フルーレ	岩本鈴菜選手(和歌山北高等学校1年) 巾下葉奈選手(和歌山北高等学校3年) 稲田棕選手(和歌山東高等学校1年)	2位	21点

監督・選手からのコメント

○ 倉矢知明選手(アーチェリー競技:成年男子)

個人6位団体6位で課題が残る試合でした。今回の試合で見つけた課題を修正し、全日本の試合やオリンピック選考に向けて調整していきたいと思います。

○ 那須皇嗣監督(アーチェリー競技:成年男子)

試合中苦しい場面が何度もありましたが、持ち前のチームワークで助け合い乗り越えることができました。決勝2回戦敗退と悔しい気持ちがありますが、選手達は最後までよく頑張ってくれたと思います。

○ 宮田悠佑選手(カヌー競技:成年男子)

今回の茨城国体では500m5位、200m優勝という結果を残すことができました。天候不順により、500mで思うような結果が出せませんでした。200mで挽回し、三連覇を達成する事ができました。東京五輪に向けて、さらに頑張りたいと思います。応援よろしくお願いします。

○ 阪本直也選手(カヌー競技:成年男子)

優勝を狙っていただけに悔しさも残りますが、200mで3位に入賞することができて良かったです。また来年に向けて頑張りますので応援よろしくお願いします。

○ 大戸文吾選手兼監督(カヌー競技:成年男子)

1500m種目に続き、スプリント種目でも過去最高順位で入賞することができました。トップスピードになるまでの時間をいかに早くするかという課題に対し、練習を重ね、結果を出すことができました。来年も1つでも上の順位で入賞し、和歌山県に貢献できるように頑張ります。

○ 冨塚晴之選手(カヌー競技:少年男子)

500m、200mともに優勝という好成績を収めることが出来たのは、日頃熱心に指導してくれた先生方やOB OGのみなさん、そしてチームメイトや家族のおかげです。皆さんのサポートがなかったらここまで良い結果も出せていないと思うので感謝の気持ちでいっぱいです。いつも皆さんの支えがあって、今の自分があるという事を忘れずに次のステップでも活躍して行きたいと思います。

○ 船本佑哉選手(カヌー競技:少年男子)

インターハイでは、決勝にも上がれず悔しい思いをしましたが、国体に向けて2ヶ月間、先生方が毎日つきっきりで指導していただき、とても良い環境で練習することができました。インターハイでの悔しさが高いモチベーション維持に繋がり、その結果、500m6位、200m8位と入賞することができました。先生方や共に練習した仲間、両親などの支えがあってこそその結果だと思っているので、とても感謝しています。

○ 野久保翔万選手(カヌー競技:少年男子)

今回はインターハイでの雪辱を晴らすと共に、このペアで最後の大会なので最低入賞を目標として練習をしてきました。インターハイが終わってから、今までになく追いついてきた結果が500m6位、200m8位の2つの入賞に繋がったと思います。最高の相方と最後のレースを後悔なく国体入賞という形で飾れて本当に良かったです。感謝する気持ちを忘れずこれからも頑張っていきたいです。

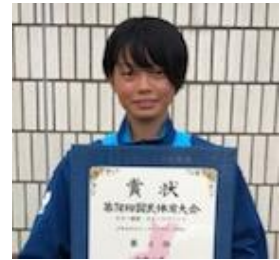




監督・選手からのコメント

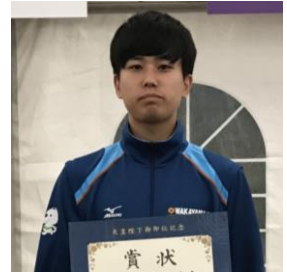
○ 尾崎由依選手(カヌー競技:少年女子)

競技を初めて5年間、なかなか努力が実らない苦しい日々を過ごしてきました。前日にあった500mの決勝も最下位という結果でしたが、200mでは、もう後がないという思いで臨み、必死にゴールを目指し、4位という結果が得られたことを嬉しく思います。この結果は、根気強く指導して下さいました先生方や共に切磋琢磨した仲間たち、支えてくれた家族や応援して下さいました皆様なしには得られなかったと感謝しています。これからも精進して参りますので、引き続き応援よろしくお願いします。



○ 谷地利和監督(カヌー競技:スプリント)

ベストな選手と最高のチームスタッフとベストコンディションで茨城国体に挑む事が出来ました。出場選手それぞれがベストを尽くしてくれた結果が競技別天皇杯5位という大躍進に繋がったと思います。これもひとえに同じ志の県カヌー協会の優秀なスタッフやコーチ陣、OBOG、保護者の尽力、県民の皆さんの応援があったからだと思えます。



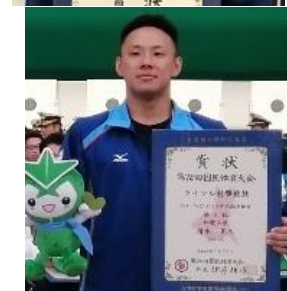
○ 町田健太郎選手(ライフル射撃競技:成年男子)

伏射の本戦では練習通りの射撃ができ、納得できる点数を出すことができました。ファイナルは、急な突風に対処できなかったため、日頃からより風を意識して練習すべきだと感じました。膝射では、終始風が吹く状況で非常に難しい試合で、思うほど点数を伸ばせませんでした。参加種目全てで入賞でき良い経験になりました。



○ 宮脇正人選手(ライフル射撃競技:成年男子)

オリンピック候補選手が多数出場する競技でしたが、その中で最後まで引けを取らず健闘し5位入賞を果たせたことは大変嬉しく思います。特に本選順位8位から3つ順位を上げることができて良かったです。



○ 清水晃久選手(ライフル射撃競技:成年男子)

国体には過去3回出場し、結果を出すことができませんでしたが、諦めずに練習してきて今回何とか入賞することができました。応援していただいた、職場の方々や家族に感謝しています。来年も出場するチャンスがあれば更に上位を目指して頑張りたいと思います。



○ 駒阪勇氣選手(ウエイトリフティング競技:少年男子)

怪我を乗り越え、沖縄インターハイで失敗したC&J150kgを挙げ優勝出来たことはとても嬉しいです。この結果に満足せず、更なる高みを目指して精進していきます。



○ 立花昂暉選手(ウエイトリフティング競技:少年男子)

インターハイでは満足のいく結果ではなかったため、国体に向け練習に一生懸命取り組み、メダルを取ることができたのでとてもうれしいです。この結果に満足せず次の大会でも頑張ります。

○ 碓雅樹監督(ウエイトリフティング競技:成年少年男子)

成年、少年共に入賞することができました。特に駒阪選手が優勝するなどチーム和歌山一丸となって戦うことが出来ました。また、多くのみなさんの応援が力を発揮する原動力になりました。

○ 木工理恵選手(バスケットボール競技:成年女子)

初戦は固さがありましたが、その後は楽しくできました。準決勝では、力が出せず悔しいですが、今後の試合に繋げていきたいです。

○ 永田睦子監督(バスケットボール競技:成年女子)

和歌山県初の入賞ができたことは嬉しく思います。入賞へのプレッシャーか動きに固さはあったものの選手たちはよく頑張ってくれました。良い経験ができました。来年はリベンジしたいです。





監督・選手からのコメント

○ 和田翔吾選手(ボウリング競技:成年男子)

安里選手とナショナルチーム時代から共に戦ってきた仲間で、その戦い方をこの国体で実践することができました。それが最高の結果となり、本当に嬉しいです。4人チーム戦は、以前までは、自分がチームを引っ張ることが絶対条件という戦い方でしたが、今では仲間がすごく成長してきて、今回の大会もとても頼もしかったです。

○ 安里秀策選手(ボウリング競技:成年男子)

2人チーム戦は、予選でやるべき事をきちんと2人で出来たと思います。和田選手とはナショナルチームからの仲なのでチームの雰囲気作りや、ゲーム作りが上手く出来ました。また来年二連覇と新記録を狙いたいです。

○ 渡邊玲史選手(ボウリング競技:成年男子)

昨年2位でしたので、気負いがあり自分のボウリングができずに悩みましたが、相方の後輩が助けてくれました。後半戦は考えていた通りのボウリングで入賞することができ貢献できたと思います。来年は表彰台の一番高い所に立ちたいと思います。

○ 川崎未来選手(ボウリング競技:成年男子)

去年に引き続き入賞することができました。内容的に自分はあまり活躍できなかったのですが、来年は去年と今年以上に活躍できるように頑張りたいです。

○ 西田一善監督(ボウリング競技:成年男子)

目標であった競技別の天皇杯1位が今年実現できました。成年男子含め全種別の監督、選手に感謝です。これからも次の目標を定め頑張りたいと思います。

○ 安里紗希選手(ボウリング競技:成年女子)

2人チーム戦は、すごく楽しいチーム戦でした。2人で笑顔で楽しんで投げれたことが決勝進出に繋がったと思います。決勝戦では、難しいコンディションで苦しみました。また練習し、いつかリベンジ出来たらと思います。

○ 伊勢川華愛選手(ボウリング競技:成年女子)

2人チーム戦の決勝戦はとても難しい中、焦らず我慢できたことが、結果につながりました。予選は安里選手に引っ張ってもらったので、決勝戦では、引っ張ることができて良かったです。

○ 川口茉紀選手(ボウリング競技:成年女子)

2位入賞することができましたが、チームとしては、1位を目指してきたので喜びより悔しさのほうが大きいです。ただ4人チームの2位という結果により天皇杯獲得が確定したことは、心の底から嬉しく思います。次こそは1位を目指して、また頑張りたいと思います。

○ 仲岡伸哲監督(ボウリング競技:成年女子)

2人チーム戦、4人チーム戦が入賞できたことは、大会に向けての強化練習の成果が発揮出来たことが大きな要因だと思います。また、選手個々のメンタルも強くなったと感じました。他府県からは、和歌山は、チーム戦が強いと言われますが、チームとしての役割を理解し、粘り強く我慢する事で入賞する事ができたと思います。

○ 林田翔太選手(ボクシング競技:成年男子)

2連覇を目標に挑んだ今大会でしたが、一回戦で負傷し、次戦を棄権するというとても不甲斐ない結果に終わってしまいとても悔しいです。来年は優勝できるように頑張ります。

○ 星大二郎選手(ボクシング競技:成年男子)

和歌山国体後、結果を残せない日々が続いていたので、ようやく形になり嬉しいです。競技者としての峠は過ぎたかもしれませんが、自分が競技を続けることが、和歌山県ボクシングの競技力向上に繋がると信じています。来年は、優勝します。

○ 齋藤正樹監督(ボクシング競技:成年男子)

今回の茨城国体では、プレッシャーもあったと思いますがベテラン2人が頑張ってくれました。林田は、1回戦の不運のケガで2回戦には出場できなかった事が残念でした。星は、抜群のボクシングセンスと高いモチベーションで3位になり頑張ってくれた事を嬉しく思います。





監督・選手からのコメント

○ 酒井梨々華選手(陸上競技:成年女子)

いつも試合では1投目に失敗することが多かったのですが、今日は1投目から思い切り投げることが出来ました。しかし、2投目以降記録を伸ばすことができなかつたので悔いが残っています。自分が頑張る姿を、後輩の少年選手に見せることができて良かったです。また、恩師の保田先生の喜ぶ顔が見られて良かったです。

○ 松本万鈴選手(陸上競技:成年女子)

この試合でベスト記録を更新しようと思っていただけに、とても悔しい思いです。来年の鹿児島国体では1m80を跳んで優勝します。

○ 助永仁美選手(陸上競技:成年女子)

本当に良かった一言です。9位と追い込まれた3投目は、こうしなければならないという固定観念を捨て、楽しんで後悔しない投げを心掛けました。今年は思うような投げが出来ず悩むことが多かったのですが、入賞することが出来て良かったです。

○ 岩井和也選手(陸上競技:少年男子共通)

自分が想定した以上に最初の1000mのペースが遅く、前の集団に付いて歩くことができました。さらに、給水のタイミングで順位を上げられたことが、入賞に繋がったと思います。しかし、3位の選手との差が10秒もなかつたのに追いつくことができず、悔しいです。

○ 小林聖選手(陸上競技:少年男子B)

優勝を目指していましたが、持っている力を全部出せず悔しいです。先生方のサポートや選手のみんなの応援が力になりました。

○ 井上英典監督(陸上競技)

今年は20点獲得を目標にしていました。まだまだ課題はありますが、来年も頑張りたいと思います。助永選手や鈴木選手は、毎年和歌山のためによくやってくれています。心から感謝したいです。

○ 東哲平選手兼監督(フェンシング競技:成年男子)

今回の国体は若手2名を軸に臨んだ結果、3位入賞という結果を残せました。昨年の4位から順位を上げる形となり満足な結果になりました。

○ 九野桃佳選手兼監督(フェンシング競技:成年女子)

去年は2位という結果で、今年こそはとメンバー心1つに試合に挑みました。去年のリベンジを果たすことができ、本当に嬉しいです。応援してくださった方々に感謝し、次の目標に向け、また頑張ります。

○ 太田航輔選手(フェンシング競技:少年男子)

チームメイトがそれぞれ違う学校で不安な部分がありましたが、時間を見つけ一緒に練習を重ねいくうちに、チームワークが強まりました。結果は4位であと一步のところまで決勝に行けず、とても悔しい気持ちでいっぱいです。

○ 後藤真徳監督(フェンシング競技:少年男子)

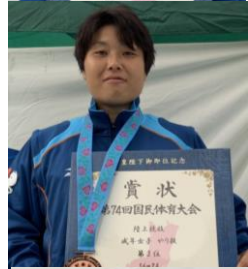
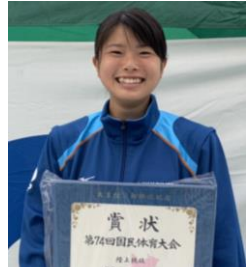
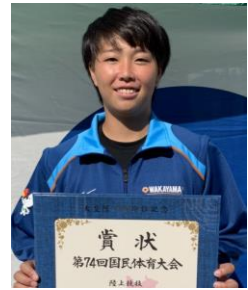
今回のメンバーは、全員が他校の生徒であったため、一緒に練習できる環境を整えるなど、チーム作りが大変でしたが、本戦では一人ひとりが自分の役割を果たし全力で戦い抜いてくれたので、本当に良いチームだったと感じています。これからも日々努力を重ねていきたいと思っています。

○ 巾下葉奈選手(フェンシング競技:少年女子)

今回、準決勝で埼玉県とあたり厳しい試合を勝つことができ自信を持って決勝の試合に挑むことができました。決勝では全員が力を出し切れたのですが、優勝することができませんでした。すごく悔しいですが、試合を楽しむことができました。

○ 西口美和子監督(フェンシング競技:少年女子)

茨城国体優勝を目指して選手一丸となって取り組んで来ました。後一步のところまで優勝は逃しましたが、選手の頑張りを心から讃えたいです。来年の鹿児島国体での優勝に向けて、また一から頑張ります。





第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体2019) 和歌山県選手団 高橋総監督 談話

「いきいき茨城ゆめ国体2019」が冬季大会(スキー競技:2月14日~17日)、会期前競技(体操・水泳・ビーチバレーボール競技:9月7日~16日)に引き続き、9月28日~10月8日までの11日間にわたり本大会が開催されました。総勢381名の本県選手団には、各競技において、本当によく頑張っていたいただきました。深く感謝申し上げます。

皆さんの健闘により、男女総合成績は、997点(競技得点607点+参加点390点)で第22位、女子総合成績は、515.5点で第29位という昨年を大幅に上回る立派な結果となりました。

獲得した競技得点の割合を見ますと、個人競技が12競技381点(63%)、対人競技が6競技198.5点(33%)、集団競技が1競技27.5点(4%)となり、種別比較では、成年種別21種別354点(58%)、少年種別15種別205点(34%)、共通種別4種別48点(8%)。男女別得点では、男子が431.5点(71%)、女子が175.5点(29%)となっています。

特に活躍した主な競技は、ボウリング競技が競技別天皇杯を獲得し110点、フェンシング競技が成年女子フルーレ1位、少年女子2位、成年男子フルーレ3位、少年男子4位に入賞し78点、セーリング競技が成年男子の2種目優勝を含む全種別で入賞するなど62点、カヌー競技が成年種別、少年種別でともに優勝するなど53点、自転車競技が女子チームスプリントの2位をはじめ5種目入賞で42点を獲得しました。また、バスケットボール競技成年女子種別やトライアスロン競技での初入賞などもありました。

今回の茨城国体は、昨年に続く入賞、念願の初入賞、また惜しくも敗れたものの次に繋がる好試合が多数あり、監督や選手の皆様の国体への強い思いを感じることができました。

このような思いの結集が、チーム和歌山の大きな力となり、本県の目標であった男女総合成績20位台前半を達成することができ、今後の本県の競技力向上に自信が持てる結果となりました。

県体育協会としましては、競技力のさらなる向上を目指し、県競技力向上対策会議及び各競技団体とさらに連携して課題解決するとともに、鹿児島国体に向けて選手のサポートをより一層推進してまいります。